

水が語るもの



水ものがたり
世界の川と水インフラ (10) —モンゴル国セレンゲ川—

世界の水 水辺空間を生かした都市再生の事例 —アツア(その1)—

水害碑
由良川の水害碑

京都の水文化(その1)
『淀川水系河川絵図集成』の刊行

水と文学 近江のうみと、茅渚のうみ

みんなの水辺
鴨川運河の魅力とは—その魅力を活かしたまちづくり—

うおーたーねっと
水都大阪と幻の大阪万国技館 (16)

操作関係者へ聞く

排水機場訪問記

巨椋池排水機場

川シロリーズ
THE RIVER
歴史に彩られた流れ
宇治川



特定都市河川流域

このたび、法律に基づき、近畿地方整備局、奈良県、大和川流域（奈良県域）25市町村によって「大和川流域水害対策計画」が策定され、流域のあらゆる関係者が協働して治水対策を推進するため、ハード・ソフト一体とする総合的かつ多層的な対策が位置付けられましたので一部をご紹介します。

例えば、氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策では、これまでの流域整備計画で取り組んできた、河川整備、ため池の保全・治水利用、水田貯留、雨水貯留浸透施設や防災調節池の整備等をさらに推進するとともに、新たな取り組みとして、既存ダムの洪水調節機能強化等が加わりました。

3. 水害リスクを踏まえたまちづくり

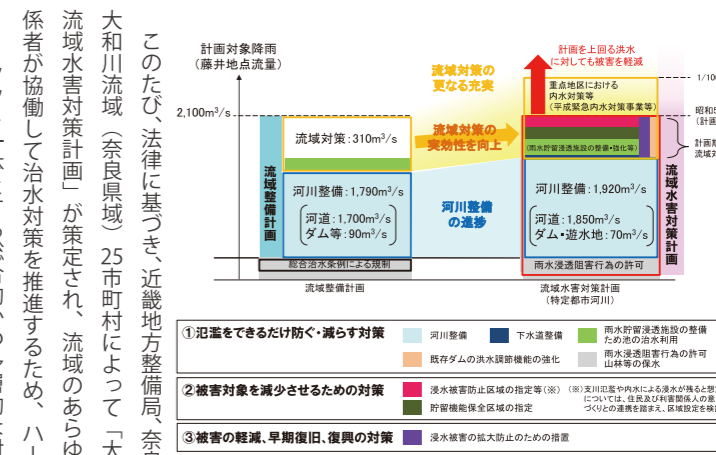
さらに、浸水被害対象を減少させるための対策として、水害リスクや土地利用形態等を考慮した上で、土地所有者や関係者の理解を得ながら、浸水被害防止区域や貯留機能保

1. これまでの大和川の治水対策

大和川の大和川・奈良県境には、地すべり地である亀の瀬狭窄部があります。狭窄部上流の奈良県域では、放射状に156の支川が本川に集中し、河川のはん濫や内水被害が発生しやすい地形となっています。このため、昭和58年には、奈良県内の市町村と奈良県、近畿地方建設局（当時）により「大和川流域総合治水対策協議会」が設立され、協議会で定めた「流域整備計画」に基づき治水対策や流域対策が進められてきました。

2. 新たな「流域治水」の計画策定

近年、水災害が激甚化・頻発化し、気候変動の影響により降水量の増加等が見込まれることから、昨年「流域治水」の実現を図る、「特定都市河川浸水被害対策法」の一部を改正する法律（通称「流域治水関連法」）が施行されました。大和川（奈良県域）は、令和3年12月24日に施行後全国初となる特定都市河川の指定を受けています。



浸水被害対策の基本的な考え方及び3つの視点からの対策

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策
② 被害対象を減少させるための対策
③ 被害の軽減、早期復旧、復興の対策

全区域の制度も活用した、水害に強いまち（流域）づくりを進める計画となっています。

・ 浸水被害防止区域
洪水が発生した場合に著しい危害が生ずるおそれがある土地において、開発規制・建築規制をすることで高齢者等の要配慮者をはじめとする住民等の生命・身体を保護するために指定する区域。

・ 貯留機能保全区域
川沿いの低地や窪地等、過去より農地等として保全されてきた土地の貯留機能を将来にわたって可能な限り保全するために指定する区域。

これらの区域指定以外にも、防災・減災のための土地利用を促進するために、今後、水害リスクマップを作成し、市町村や住民に分かりやすく情報提供することとしています。



特定都市河川流域におけるハード・ソフト対策のイメージ
【資料提供：国土交通省 近畿地方整備局】

編集後記



コロナのパンデミックは、少し収まる気配を見せているのではないかと考えていますが、ロシアのウクライナ侵攻という事態が発生しました。平和な世界を祈るばかりです。

24号では、このような事態に関して、藤井 薫様の「うおーたーねっと」を変更して、ややショッキングな「ロシアの大阪侵攻？」という見出しで、幕末から明治にかけてのロシアと大阪の関係について書いていただきました。

また、当誌の編集を担当する（一財）近畿地域づくり研究所が、「淀川水系河川絵図集成」を発売しました。この書籍を編集いただいた鈴木 康久先生に「京都の水文化」の欄に、発刊のねらいや内容について、記述いただきました。この本は、内容が充実し、読んで楽しいものに仕上がっていると思います。

「川シリーズ」は宇治川を訪れました。現地の取材では、歴史の深さとそれを大事にされている関係の方々へ感銘を受けました。大和川では、流域治水関連法施行後、全国初となる特定都市河川の指定を受け「大和川流域水害対策計画」が策定されました。「トピックス」で紹介しています。編集担当に新しく2名のメンバーが参加しました。新しい陣容でより充実した紙面を目指していきます。

担当：
益倉克成 森川一郎 服部龍雄 鈴木里奈 和田桂子

水が語るもの

表紙写真

京都府宇治市「宇治川」



目次

3	水ものがたり 世界の川と水インフラ(10) -モンゴル国セレンゲ川-	京都大学名誉教授 いけぶちしゅういち 池淵 周一 (公財) 河川財団研究フェロー
6	川シリーズ 歴史に彩られた流れ 宇治川	
10	世界の水 水辺空間を生かした都市再生の事例 -アジア(その1)-	工学博士 元大阪産業大学教授 なかの まさひろ 中野 雅弘
12	水害碑 由良川の水害碑	
14	京都の水文化(その7) 『淀川水系河川絵図集成』の刊行	京都産業大学 現代社会学部 教授 すずき みちひさ 鈴木 康久
18	水と文学 近江のうみと、茅渚のうみ	評論家・文化プロデューサー かわうち あつろう 河内 厚郎
22	みんなの水辺 鴨川運河の魅力とは ~その魅力を活かしたまちづくり~	鴨川運河会議 代表 うかい じつゆき 鶴飼 実幸
24	うおーたーねっと 水都大阪と幻の大阪大国技館(16)	水都の会 城北川プロジェクト 代表 ふじい かおる 藤井 薫
26	排水機場訪問記 -操作関係者に聞く- 巨椋池排水機場	近畿水管理・国土保全研究会 うめた かずお 梅田 和男
28	トピックス 大和川流域水害対策計画の策定	



水ものがたり

世界の川と水インフラ(10)

—モンゴル国セレンゲ川—

京都大学名誉教授
(公財) 河川財団研究フェロー

池淵周一
いけぶちしゅういち



前回に引き続き、モンゴルの首都ウランバートルから北へロシアとの国境までの地域を紹介する。

トール川と首都ウランバートル

トール川の流域面積は約5万km²、長さは約700kmである。最上流はタイガや森林ステップに覆われているが、流域の83%は樹木の少ない大草原が広がるステップである。この草原ステップはほとんどが牧草地に利用され、農耕地は少ない。

首都ウランバートルはトール川とセレベ川のほとりにあり、四方を山にかこまれた盆地で標高1,351mの地にある。年間平均気温がマイナス0.7℃と低く、世界一寒い首都ともいえる。ウランバートルの人口は2020年度で約144万人と国民の半数近くを占め、人口集中が凄まじい。市中心部では多くの商店街があり、高層ビルやマンションも林立している。市の中心には政府庁舎や国会議事堂があり、チンギ

ス・ハーンの巨大な座像が凜と周囲を圧している。庁舎の南側に石畳の敷かれた広場がある。スフバートル広場であり、チンギス、オゴタイ、フビライの3ハーンが鎮座、中央に革命家スフバートルの騎馬像がある。広場を囲むように高層ビルやホテルが立ち、ビジネス街になっている。チンギス・ハーンの名を冠したチンギス・ハーン国際空港、チンギス・ハーンテーマパークにたつ巨大な騎馬像など、建国の父、チンギス・ハーンが英雄視されている。一步、市中心街を離れると周りを塙で囲んだゲル付き住宅地が建ち、ゲル地区と呼ばれている。周囲の丘の斜面にも新興住宅地やゲル住宅地が広がっており、仕事を求めて若い世代が移り住んでいる。

最近では人気のある日本の中古車をはじめ、車の輸入量が多くなっており、市内では車の渋滞も見られる。市内には巨大な火力発電所が聳えており、しかも冬はほとんどの家庭が石炭を燃やして暖房している。かで、12月から4月ぐらいまでは大気汚染が酷い。

モンゴル料理はポリウムたっぷりの肉料理が多く、乳製品も豊富で、こうした食生活もあってかモンゴルの人は男女とも筋肉質で体格も大きい。蒙古相撲も盛んで、力士はその戦績によって名誉ある称号が与えられる。夏のスポーツの祭典ナードムでも競馬、弓競技と合わせ相撲は人気がある。わが国の相撲界にあって、モンゴル出身の関取が多いが、日本で名を成した関取が帰国後、モンゴルの政界やビジネス界に進出、活躍している。

ウランバートルの上水水源と上下水道システム

ウランバートルの北をトール川が東から西に流れている。北東方面にハンガイーヘンテイ堆積盆地があり、河川によって運ばれた堆積物が



を囲み、その中に多くの揚水井戸ポンプ場がある。こうした河川堆積物中からの地下水揚水はトール川上流の川幅の広い箇所形成された中州上でもみられた。

ウランバートル市の上下水供給システムは整備されている。ウランバートルの上下水水源は上記の市の南東に広がるエリアから井戸で揚水する地下水の他に、トール川に流れ込む近郊の河川に規模は小さいが11基のダム(容量は合わせて42,000m³)を設け、ダムに貯められた水を市内に送水ポンプ場、パイプラインで供給するものがある。ダムは冬の凍結に耐えられるよう、鉄筋コンクリートで造られ、土で覆われている。ゲル地区ではパイプラインに繋がった給水所から水を運んできたり、塀で囲まれた敷地内に井戸を掘ってくみ上げている。

これら使った水は下水道システムを通して市の終末処理場に運ばれ、処理後、トール川に排出される。処理場の規模や排出基準が緩いのか、ゲル地区からの未処理排水も加わって、ウランバートル市直下のトール川の水は汚れている。市の担当者は



モンゴル草原とゲル



ゲル内でのジンギスカン鍋

のあたりにくると農地が広がり、小麦の生産など農業が盛んにおこなわれており、本県はモンゴルの穀倉地帯である。途中、オルホン川に出会うが、オルホン川に沿う町としてダルハンがある。ダルハンは人口約8・6万人のモンゴル第三の都市で、工業が盛んである。さらに北上するとセレンゲ県の県都スバルバートルが

新たな処理場建設に言及していた。ウランバートル市総合政策局の水資源担当者は今後とも人口の増加や産業化が進むことから、地下水利用にも限界がくる。水資源確保策として

地下水揚水に加えて河川水開発が必要であるとの立場から、トール川に洪水調節と表流水・地下水の有機的連携開発を目的としたダム計画をたてている。それは1989年にソ連のエキスバート支援で地下水源とともにダムについても実施調査がなされ、その後、Tul River Water Complexなる機関が、ウランバートルへの水供給、トール川の発電、洪水調節、河川環境の保全などをもたらす重要な多目的ダム3基を建設することを計画している。最大のものは流域面積4,164km²をもつ地点でのダムで、1000年確率洪水1,548m³/秒と設定するなど具体的であり、中国の融資、中国や韓国の企業が乗り出しているとのことであるが、実現には至っていない。

ウランバートルからロシア国境に向かう

ウランバートルの近郊を走ると、道路沿いにモンゴルでの豊富な日射がある。穀物や木材の集散地となっており、ロシアとの国境に接している。ロシアとの交易も盛んで鉄道や道路など交通網が発達している。さらに国境に向かうと、タイガ樹林帯が広がり、タイガ樹林内を走ると国境にたどり着く。そこには国境警備兵の詰め所があり、道路にはゲートがあり、道路はそのままロシア領に延びている。国境は断崖になっており、眼下に見るセレンゲ川はオルホン川を合流させ、川幅は広く、その中をゆったりとロシアに向かって流れ下っている。川の脇を鉄路が走っており、ちょうどスファートルを出てロシアに向かう列車が何両もの貨車を重そうに牽引している。国境の断崖地はジオパークの呈をなしており、大きな石柱が林立、その一角には小さな小石を積み上げ



国境付近に立つスフィンクス風の岩

と広大な土地を利用して何千もの太陽パネルが設置されていた。日本の企業が融資して建設されたことと、再生エネルギーの進出をみた。小さい峠を越える丘の上に不思議な塔を見かけた。登ると、そこには小石を積み上げ、紙幣などが供えられていた。もともと遊牧民たちが神の目印として石を高く積み上げてつくった塔で、オボと呼ばれている。登ってみたのは、このオボで、いまでは道しるべ的に小高い丘の上にあり、旅人はここで休憩し、道中の安全を祈願し、小石や紙幣を塔にお供えしていくという。旅の安全を祈願した。



安全祈願のシンボル、オボ

ウランバートルから国道を北に向かうと、小高い丘の上に日本人墓跡がある。第二次世界大戦後、モンゴルに抑留中亡くなった約1700



銅山の露天掘り

げ、周りの木の枝には紙幣が結ばれている。これも旅人の道中の安全を祈願してのオボ一なのかもしれない。はるか遠くにみるロシア、この地がモンゴルとロシアの国境かと思うと感無量であった。

国境を離れ、オルホン川を遡上、エルデネットに向かった。エルデネットにはアジアで最大、世界でも4番目に大きな銅鉱山があり、モンゴルとロシアの合弁会社、エルデネット鉱業株式会社が開発し、町は発展した。人口約10万人のモンゴル第二の都市になっている。銅、モリブデンの他、レアメタルが精錬され、この鉱山だけでGDPの13・5%を占めているといわれている。この銅鉱山を許可を得て見ることができた。露天採掘場は巨大で、大型ダンプが縦横に



塩湖

名の日本人を祀った祠である。その後は、広々とした草原、羊やヤギが群れをなし草を食み、馬がゆったりと走る、草原ののどかな風景が続く。さらに北に向かうと道路沿いに広大な塩湖があった。湖面いっぱい白い塩が噴き出ており、遠くに周囲の山々が湖面に美しく映えていた。湖岸にはラクダの足跡などが見られ、家畜の水飲み場にもなっている。

さらに行くとも道路脇にチンギス・ハーン像テーパーパークがある。高さ12m、直径30mの円形の台座に高さ40mのチンギス・ハーンの騎馬像が聳え立つ。そこから見晴らす広大な草原、草原に立地する遊牧民の住居ゲル、モンゴルそのものの風景を展望した。ゲルを身近にみるため、あるゲル住宅を訪ねた。テント式であ

走り、採掘土はベルトコンベアで近くの精錬所に運ばれ、洗鉱されている。洗鉱後の残滓は廃水とともに近接する山の谷間に造られたダムに持ち込まれる。いわゆる鉱滓ダムで、この鉱滓ダムは巨大なアースダムである。ダムの湖岸に立つと残滓堆積物が相当貯まっており、その上澄み水の汚れも相当なものであった。ダムの嵩上げを考えているとのことだったが、ダム直下には多くの人家も見られ、ダムの崩壊を懸念した。ここにおいても鉱山廃水の河川への影響がいられている。

都市の水利用はもとより、草原地帯での遊牧民や家畜の飲み水も地下水に依存、広々とした草原、ゲル集落とのんびり草を食む家畜の群れ、澄んだ空と満天の星、ここにモンゴルの大地と水、人々の営みを感じた。

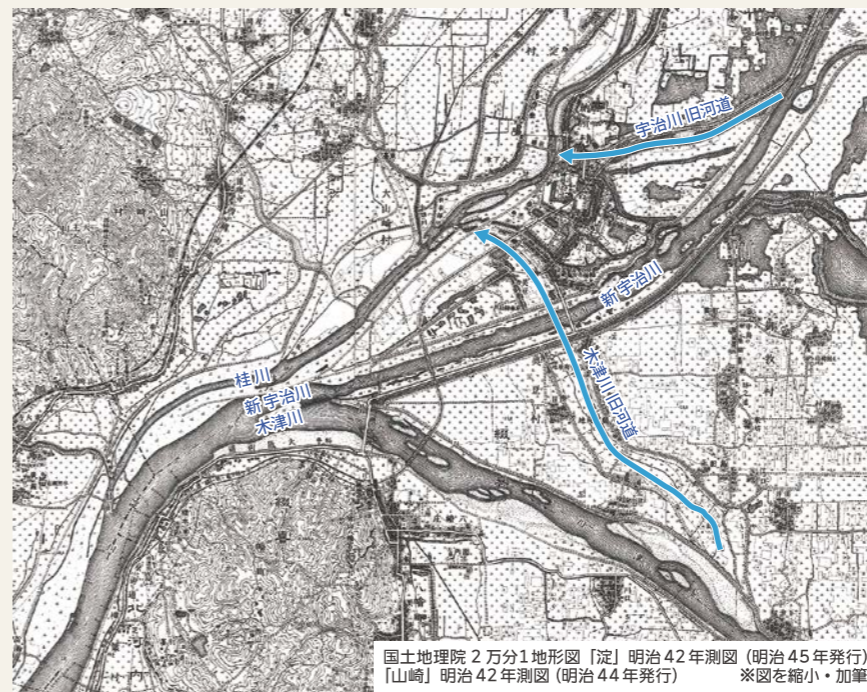


鉱滓ダム

歴史に彩られた流れ
宇治川
宇治川は、淀川水系の本川で、琵琶湖から流出する唯一の河川です。琵琶湖から滋賀県内の区間が瀬田川と呼ばれ、京都府内に入ると宇治川と呼ばれるようになります。宇治川は、平安朝の文化を育むとともに、その後の時代の歴史の舞台となっています。

宇治川

I 木津川、宇治川、桂川の三川合流点の河道の変遷と、淀城の築造



国土地理院 2 万分 1 地形図【淀】明治 42 年測図（明治 45 年発行）
【山崎】明治 42 年測図（明治 44 年発行） ※図を縮小・加筆
明治 42 年測量の合流点の地図 明治年間の河川の付け替えの跡が明瞭にわかります

1. 合流点の河道の変遷

河川の合流点は、流水が集まると同時に、歴史的に物流の中心地になってきました。このため、洪水防御と物流の確保のために合流点を適切に管理することが、長い間の歴史の中で求められてきました。

宇治川の木津川・桂川との三川の合流点の河道も、時代の変遷とともに、洪水防御と物流確保のための人為的な変更を受けてきました。

豊臣秀吉による宇治川の巨椋池からの分離、明治期の木津川と宇治川の合流点の変更、その後の三川の合流の流れをスムーズにするための木津川と宇治川間の背割堤と宇治川と桂川間の隔流堤の設置などの大きな変更が行われてきました。

2. 淀城の築造



三川の合流点に位置する淀は、古代より諸国から京都に運ばれる物資を集積する商業地でした。この淀の地に秀吉が築かせた淀城(古淀城)は、現在の淀城跡から北の伏見区納所にありました。現在の淀城跡は江戸時代に徳川幕府が松平定綱に造らせたものです。淀城跡の案内板によると、城とその城下町は当時の宇治川と木津川に囲まれ水に浮かぶ水上都市の様相を示しています。

II 伏見港の歴史と三栖閘門

1. 伏見地域

伏見港の発展は、豊臣秀吉による宇治川の流路の大幅な変更を行った大規模な土木工事に始まります。この事業により伏見港を宇治川とつなぎ、陸上と河川の交通を伏見城下に集中させました。伏見港は、宇治川とその派川である濠川(ごうかわ、ほりかわ)を結ぶ形で、交通の要衝になり、三十石船が伏見と大坂の間を行き来しました。



濠川を通る十石舟



伏見地区の酒蔵群

江戸時代の高瀬川の開削により、京都と伏見が高瀬舟などの船で結ばれたことにより、京都の外港としての役割は更に増しました。濠川沿いには問屋、宿屋、酒蔵が建てられ米や薪炭、酒などを運ぶ舟が行きかいました。現在でも、幕末の坂本龍馬襲撃で有名な寺田屋や酒蔵群が残り、当時の面影をとどめています。

明治時代になると、琵琶湖疏水が開通し、疏水を利用した鴨川運河が伏見と接続され、新たな舟運のルートが開

拓されました。淀川においては、三十石船に代わり蒸気船が就航し、伏見への舟運は盛を極めました。しかし、その後の陸上輸送の発達により、昭和 37 年には、舟運の終焉を迎えました。

2. 三栖閘門の建設

伏見地区の西端に近いところで濠川が宇治川に流入する地点に設置されている 2 つのタワー式の構造物が、三栖閘門です。1918 (大正 7) 年に開始された淀川改修増補工事による観月橋と三栖の間の宇治川右岸の築堤工事や宇治川の掘削による河床の低下により、伏見港と宇治川の直接の連続が絶たれ、舟運ができなくなるため、宇治川と伏見港につながる濠川の間の船の通行を可能にするために、1929 (昭和 4) 年に三栖閘門が造られ、閘門による水位調節により通行

が可能となりました。経済発展のための舟運の向上が求められている時代であり、完成当時は石炭などを輸送する船が年間 2 万隻以上も通過し、伏見港が最も栄えた時代でした。現在では淀川の舟運の終焉とともに役目を終えた三栖閘門とその周辺地域を対象に、地域と歴史文化の継承と淀川が誇る歴史遺産の保全をめざすことを目指し、人々が伏見の歴史・文化を語り継ぐための憩いの水辺として整備されています。



三栖閘門

III 支川 山科川周辺

観月橋の上流で宇治川に合流する山科川は、桃山丘陵の東側、京都市伏見区東部と山科区を流域に持つ、流域面積 56.1km³のこの区間に流入する最大の支川です。かつては、下流部に沼や

湿地が広がり 1934 (昭和 9) 年の室戸台風をはじめとして、下流部の浸水が多い地域でしたが、堤防強化、排水ポンプ場などの設置などにより洪水対策が進んでいます。流域には、秀吉の醍醐の花見で有名な世界遺産の醍醐寺、平安時代の醍醐天皇にゆかりのある勧修寺、地名の六地藏のもとになった大善寺や、流域の近隣の黄檗山萬福寺などが存在し、歴史との関わりが深い河川になっています。



桜の醍醐寺 西大門



太閤堤

豊臣秀吉の宇治川付け替えに伴い構築された堤防の遺構が発掘されました。写真は発掘地点に設置された実物大の遺構のレプリカ



さくらでい館からの背割堤 左: 木津川 宿: 宇治川



琵琶湖と天ヶ瀬ダム～天ヶ瀬ダム再開発事業について～

国土交通省 琵琶湖河川事務所

琵琶湖は、宇治川が山間部から平野に開ける地点に位置し、源氏物語の「宇治十帖」に代表されるように平安時代から多くの人が訪れた景勝の地です。歴史的な多くの観光資源に恵まれ、多くの観光客が訪れています。

琵琶湖について

近畿地方が古くから発展したのは、淀川に流れる水の恩恵が大きいためです。しかし、洪水により幾度も大きな被害を受け、その都度、人々は復興し川と共存してきました。



琵琶湖・瀬田川

なかでも、琵琶湖はダムではありませんが、下流の洪水を和らげる効果は大きく、日本最大の湖であり、日本一の貯水池でもあります。天ヶ瀬ダムは、京都府宇治市に建設された、治水・水道・発電3つの役割を持つアーチ式コンクリートダムです。その集水面積は、琵琶湖流域3,848km²とあわせて4,200km²、天ヶ瀬ダム単独では352km²となっています。

天ヶ瀬ダムについて

天ヶ瀬ダムは、京都府宇治市に建設された、治水・水道・発電3つの役割を持つアーチ式コンクリートダムです。その集水面積は、琵琶湖流域3,848km²とあわせて4,200km²、天ヶ瀬ダム単独では352km²となっています。天ヶ瀬ダムが建設されたのは、昭和28年台風13号の襲来によって、宇治川向島の破堤など甚大な被害を受けたことによります。翌昭和29年には淀川水系改修基本計画が決定され、昭和34年に建設工事に着手、昭



天ヶ瀬ダム全景



瀬田川 鹿跳溪谷

和39年に完成しました。完成した翌年の昭和40年には台風24号が来襲しましたが、ダムが洪水調節効果を発揮し、沿川の洪水被害を無事回避することができました。

琵琶湖からみた天ヶ瀬ダムについて

琵琶湖には117本の一級河川が流れ込んでいますが、琵琶湖から流れ出ていく河川はただひとつ瀬田川のみです。その瀬田川が支川の大戸川と合流して、鹿跳溪谷に至るところは、もう天ヶ瀬ダム貯水池の上流端になります。鹿跳溪谷は天ヶ瀬ダム湖からすれば貯水池の一部でしかありませんが、上流地域からすれば、洪水後の琵琶湖水位の低下を妨げる狭窄部となっています。また、大戸川の流域は、古くから都の建設のた



天ヶ瀬ダム再開発事業完成イメージ図 (新設のトンネル式放流設備の放出口)

めに木が切り出され、雨が降るたびに大量の土砂が洪水とともに瀬田川に流れ込み、大規模な洪水被害を繰り返してきました。天ヶ瀬ダム再開発事業は、天ヶ瀬ダムの治水機能の強化、水道用水の確保、発電能力の増強を目的にダムの左岸側に延長617mのトンネル式放流設備を整備するもので、平成25年度より始まった工事はいよいよ大詰めを迎えています。天ヶ瀬ダム再開発事業と並行して、下流淀川や宇治川の河川改修も進みました。再開発事業により天ヶ瀬ダムの放流能力を増強することで、貯水池の容量をそのまましながら、より大きな洪水に対応し、洪水後の琵琶湖の水位低下を早めることが可能となります。また、利水面でもダム湖の効率的な活用が出来るようになります。

IV 宇治周辺



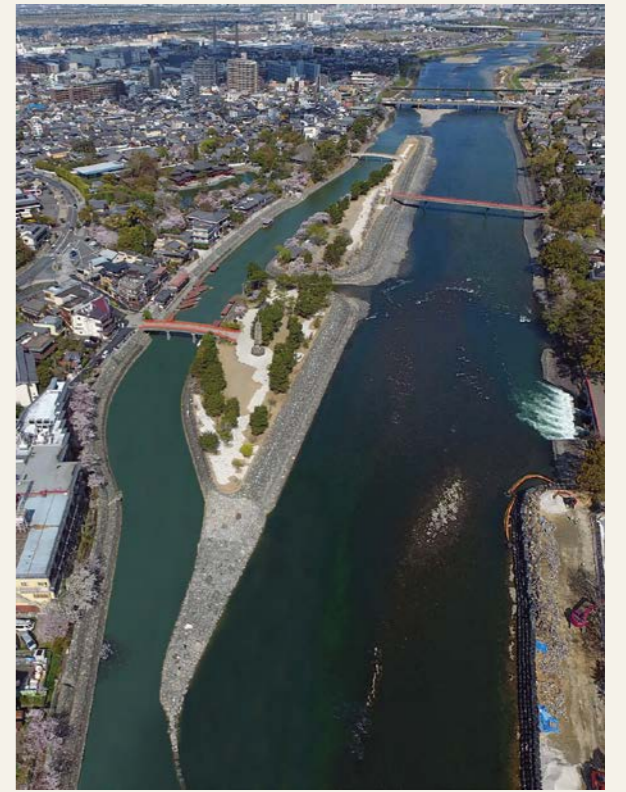
1. 宇治橋

宇治の地は、古代から交通上重要な場所になっていました。そのため古くから橋が存在し、宇治橋は646(大化2)年に僧道登によって架けられたと伝えられ、日本三古橋の一つに数えられています。重要な場所であったため、しばしば戦いの舞台となっています。「平家物語」には、以仁王と源頼政に関する「橋合戦」や源義仲と義経に関する「先陣争い」が描かれています。これらの

伝承の後も、承久の乱や織田信長の槇島城攻めなどの舞台になっていました。現在の橋は、1996(平成8)年に架け替えられたもので、橋周辺の自然や歴史遺産と調和するように伝統的な木製の擬宝珠を用い、橋の側面に橋姫を祀る「三の間」が設置され、毎年10月の「茶まつり」ではこの場所から水をくみ上げ茶が点てられています。

2. 塔の島

平等院に沿った宇治川の中にある中州です。2つの島からなっていて、上流側が塔の島、下流側が橋島と呼ばれています。塔の島には、名前の由来にもなった、高さ15.2mの十三重の塔がそびえています。鎌倉時代の1286(弘安9)年に大和西大寺の僧叡尊によって「殺生禁断」の教えを広めるために建立されました。塔の島は古くから安定的に存続した中州ですが、この地点は河川の流下能力が低く、琵琶湖の洪水後の水位を速やかに低下させるために河川改修が必要とされました。国土交通省 淀川河川事務所による工事にあたっては「歴史的に蓄積されてきた人と川、人と自然の親密な関係を文化的環境、文化的景観として再生する」というコンセプトにより河床の掘削に伴う護岸改修などにおいて景観に配慮した工夫が行われ、2019(令和1)年に完成しました。



【写真提供：国土交通省 淀川河川事務所】

3. 世界遺産の平等院と宇治上神社

塔の島を挟んだ両岸には、いずれも世界遺産に指定されている左岸の平等院、右岸の宇治上神社などの多くの名所が存在しています。平等院の鳳凰堂を囲む阿字池は、平安時代の創建当時は池岸の洲浜が宇治川に続き日本特有の浄土庭園を形成していました。



鳳凰堂と阿字池

【参考文献】
「宇治川十帖 川をめぐる十の物語」2008年 宇治市歴史資料館
「流域紀行 宇治川の原風景をたずねて」2008年 宇治市歴史資料館

世界の水

水辺空間を生かした都市再生の事例 ーアジア (その1)ー 台湾・基隆

工学博士・元大阪産業大学教授
なかの まさひろ

中野 雅弘



はじめに

前回までの本シリーズでは、ヨーロッパに始まりアメリカへ渡り、幾つかの水辺空間を生かした都市再生の事例を紹介してきました。これらはローマ時代のように歴史的に古いものから、産業革命がおこった近代ヨーロッパ時代の事例もあります。が、共通しているのは都市生活全体の質を高めること、自然と共生して良好な都市の環境を再生することを目指したものであり、都市において水辺が重要な存在となっていたからであります。

そのような歴史の中で、特に現代の都市においてさらに水辺が意識されはじめたのは、我が国では1970年代の河川および港湾地域の都市再開発であり、それらの水辺空間を取り入れる動きからでした。また折からの政府による「都市再生プロジェクト」の動きとも相まって幅広い動きとなり、都市空間の質をさらに高め、地球全体の持続的な成長に欠かせない自然環境との共生を

目指すSDGsなどの動きもあって、良好な都市の環境を再生することが実現しました。これは我が国だけでなく世界的な動きの中での変化でもあり、このようなことは欧米の事例を紹介することによって感じてきたことで、今回から紹介するアジアの事例を考えるとその動きが同一であることに気付くかと思えます。

アジアの事例では、韓国ソウル特別市の清溪川復元事業、中国上海・蘇州河の再生、シンガポール・シンガポール川河畔再生、およびタイバンコクのチャオプラヤー川流域などがあるのですが、これらの事例は上記の1970年代の動きを具体化したものであり、多くの文献ですでに報告されています。

1. 欧米からアジアの事例 (台湾・基隆)

今回は、そのアジアの事例として、隣国台湾の水辺空間の再生状況を紹介します。台湾はご存じのように現在大陸の中国と関係が微妙ですが、戦前は我が国の統治下にあり、

4. 賑わいのある基隆港の埠頭

基隆港は日本統治時代に大規模な建設が開始され、数期の築港工事によって、港湾区域内部にあった暗礁が取り除かれ、大型造船所と軍港区域、漁港区域が整備され、埠頭倉庫から港湾区域までの鉄道線路も整備されました。この築港工事の結果として、

その後の基隆港発展の基礎が固められたばかりではなく、1970年代には基隆港は台湾トップの港湾となることにもつながりました。近年では、港湾の工場や倉庫地域から離れた地域では、市民が水辺を触れあうための岸壁や埠頭には公園などが整備され、ショッピングや飲食店の開設とともに多くの市民が集う水辺空間の整備がなされてきました。

5. 山に囲まれた良港の基隆港

基隆港の東側の小高い丘に広い中正公園があり、そこへ上って基



整備された川の両岸



日よけの設置された遊歩道



古いデザインを再現した橋



水面の現代アート



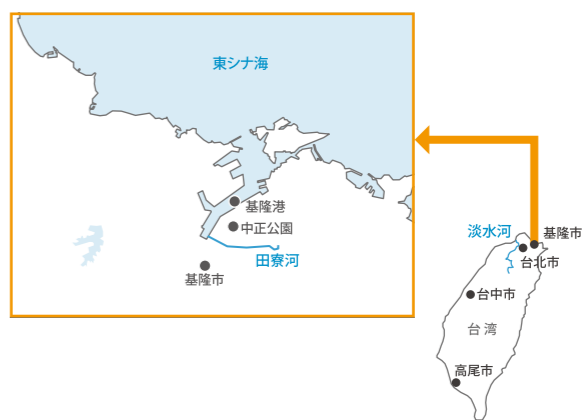
賑わう歩行者専用の橋



寄港しているクルーズ船



山に囲まれた良港の基隆港



現在も互いに親近感を覚える人が多い国です。台湾には首都台北市の近くを流れる淡水河があり、この流域は古くから港町として栄えた都市である淡水などの水辺整備の事例があります。今回は台湾北東部にあります基隆の事例を紹介します。この基隆は台北から北東に30kmと近く、1990年代にブームとなった九份にも近い台湾北東部に位置する貿易港でもあります。17世紀にスペイン人が上陸し要塞を築いたことから、基隆港は古くから近隣地域で発掘さ

3. 基隆港に流れる川(田寮河)の水辺整備

基隆港に流れる川(田寮河)は、規模こそ大きくありませんが、川の両岸は整備され市民の憩いの場と

れる石炭の積み出し港として栄えました。現在は大型コンテナ船や国際フェリーが行き交う台湾北部最大の貿易港となっています。またこの基隆は、今まで紹介しましたヨーロッパやアメリカの事例と異なり、我が国と同じアジアであり訪れると親しみを感じます。

2. 台北から基隆へ

基隆は台湾北東部の海岸沿いに位置するなじみの少ない都市ですが、今回訪れてみると台北から電車で40分位と近く、港を中心に発達した港町独特の雑多な雰囲気漂う魅力的な街です。基隆駅を降りてしばらく歩くと基隆港に着きます。コンテナ数では南部にある高雄港が一番多いのですが、世界のクルーズ船がたくさん寄港しているため、旅客数では台湾で第一となっています。

基隆港を見渡しますと、三方を山に囲まれ自然に恵まれた天然の良港であることが良くわかります。また、訪れた日には日本の鹿児島に向かう観光用の大型クルーズ船が停泊中もあり、世界中から訪れる大型クルーズ船の寄港地でもあることから、産業や観光面でも台湾やアジアにおける主要な港湾であると感じました。今回紹介した基隆は観光にも力を入れており、観光スポットとして近くの海岸沿いの地域では波で削られた

奇岩を觀賞することができ、また、毎夜開催される各地の夜市などで新鮮な魚介を味わえる料理店や買い物店で楽しむ、さらに日本のお盆にあたる中元節には大規模なパレードが開催され多くの観光客で賑わいます。欧米の街でも思いましたが、今回のアジアの事例からも河川や海辺の水辺空間を整備して人々の賑わいをもたらすことが重要であると感じました。

水害碑

一由良川の水害碑一

福知山市と周辺の洪水被害

福知山市などを流れる由良川は、上流では、勾配が急で流れが速くなっていますが、福知山盆地を流れる中流部に至り、川幅が広く、勾配も緩くなるため、流れが遅くなっています。下流部では、川幅が狭くなり勾配がさらに緩くなっています。このため、上流部から流下した洪水が中流部で溜まりやすい地形になっていて、中下流部では浸水被害が頻発しています。明治以降の主要な洪水だ

けでも、京都府下で死亡者341人を数えた明治29年の洪水、死亡者36人の明治40年、死亡者36人の昭和28年洪水が発生し、近年では、平成16年にも死亡者5人の洪水が発生しています。このような状況を鑑みて、福知山市やその周辺には、水害の記憶をとどめるための多くの施設が設置されています。

堤防神社



福知山市内の御霊神社の境内に、全国で唯一といわれる堤防をご神体とした「堤防神社」が建立されています。この神社は、福知山堤防愛護会によって、昭和59年に建立されました。堤防愛護会は、昭和28年の出水において、内水や流入水による浸水が一部発生しましたが、福知山市内を守る音無瀬橋付近の堤防が無事であったため、地元の有志によって、堤防への感謝の念から発足されたものです。現在では、福知山市内の人口で4割を占める自治会が参加しています。この会の主催により、毎年、「堤防まつり」が行われ、御霊神社前での神事や、神輿の巡行・由良川の堤防や排水ポンプ場などでの祭祀が行われています。

堤防神社は、「堤防まつり」で培われた活動のよりどころとして建立されたもので、神社前の説明板には「過去の災害の記録も薄れがちな昨今、水害防止の拠点としての神社のご加護により再び水禍の来ることのない福知山を祈念するものであります」と、災害を忘れないことの重要性が記されています。



堤防まつりの御霊神社前の神事

福知山市内の古い町並みを残す由良川の堤防沿いにあります。昭和28年の水害から50年を経過したことを記念して、「災害の記憶を語り継ぎ、将来への糧とし、住民・地域・自治体が一体となって、これからの治水・防災のあり方を共に考え行動していく」(記念館パンフレット)のために、福知山市と国土交通省福知山河川国道事務所が共同で平成17年に

整備し運営されています。この建物は、明治13(1880)年に建築され営まれていた呉服店が活用されています。館内には、水害の状況や治水、防災の記録や情報などを展示するとともに、この町屋で実際に使われていた「タカ」などの生の水害対策が保存され展示されています。「タカ」は、1階の一部を吹き抜けにし、浸水の発生が予想されるときに、事前対策として、1階の家財を滑車で2階以上に持ち上げるために使われたもので、実際の現物と、来館者が使用できる「体験コーナー」が設置されています。大部分の洪水は、家財を2階に上げることでしたが、昭和28年の洪水は、2階までも浸水したことが、襖の洪水痕跡で示されています。



『タカ』の体験コーナー

二十八災 堤防決潰之地の碑

昭和28(1953)年9月の台風13号の降雨によって由良川の堤防が決壊した福知山市和久市の堤防上に50年後の節目である平成15年に建立されました。

碑には、年間降雨量の3割に達する降雨によって、福知山市では死亡者4人、家屋の流失・浸水は5,500戸が発生し、綾部市、大江町(現福知山市)などでも被害が明治40年を上回ったことが記され、「当時の悲惨な状況から得た貴重な記憶を風化させることなく後世に引き継ぐために」と災害の記憶を残すことの重要性が訴えられています。

この地点には、治水事業の重要性を訴えた、平成10年建立の「悠久の歴史を映す由良川の治水を進めて五十年」の碑も設置されています。また、昭和28年 災害に関しては旧大江町河守にも平成15年に ほぼ同じ内容の碑が建立 されています。



天正7(1579)年に丹波地方を平定した明智光秀が城下町を築くために建設した堤防の上流端の、由良川本川と土師川の合流点に近い堤防上に建立されています。明治40年の大洪水により福知山町内の堤防4か所が決壊したことを受けて、明治42年に福知山を守る由良川左岸の「大堤防」(高さ11m、長さ1,200m)の完成を記念して、大正3年に建立されたものです。碑文は漢文で書かれた格調の高いものですが、明治29年と明治40年の洪水の被害と救援の状況や、その後に完成した堤防建設の状況が記され、後世の人に洪水の恐ろしさを伝え、予防措置の重要性が訴えられています。



改堤碑

洪水水位表示板

由良川流域には、「洪水が発生した場合の状況を知り日頃から地域の防災に対する意識を高め、備えをしていただくために、過去の主要な洪水による浸水位を示しました」と表記された洪水水位表示板が福知山河川国道事務所によって流域内に10か所程度設置されています。写真は、平成16年の台風23号によって、道路を通行中のバスが浸水し、乗客が屋根で夜明かしたことで、全国的に注目を浴びた舞鶴市志高の地点に設置されたものです。最高水位の平成16年の水位は、地上から仰ぎ見る約2mの高さになっています。現在では前面に堤防が建設され、安全性は高くなっています。



水の記憶の碑

綾部市紫水ヶ丘公園に設置されている「水の記憶の碑」は、由良川に掛かっている綾部大橋の旧親柱を活用した碑です。綾部大橋は昭和4年に建設され、国の登録有形文化財になっています。現在に至るまで、昭和28年の大洪水を始めとして、幾多の洪水にも耐え抜いてきました。「昭和28年の大水害の自然の脅威を市民の記憶にとどめ、同時に水の恩恵を忘れないために、大洪水を耐え抜き由良川と綾部の街にとって象徴的な存在となっている綾部大橋の旧親柱を『水の記憶の碑』として設置」と国土地理院の「自然災害伝承碑」に記されています。



福知山市治水記念館



京都の水文化（その7）

『淀川水系河川絵図集成』の刊行

絵図から読み解く「河川の価値」

京都産業大学
現代社会学部教授 鈴木康久

河川文化の調査研究に携わるよう

になって20年を数える。人と河川との関りを調べるのに必要となるのが、河川を描いた絵図である。これまで研究テーマに応じた河川絵図を求め、さまざま情報を得てきた。この繰り返しのなかで多くの絵図を見てきたが、どのような河川絵図が何処にあるのかを訊ねられても、明確な回答を持ち得ていなかった。

この「問」に対する「解」を得たいと、一般財団法人近畿地域づくり研究所の益倉首席研究員と協議をし、江戸期に描かれた淀川水系の河川絵図を掲載する書籍を刊行することとなった。刊行に際して多くの絵図を見る機会を得たことで、河川絵図の変遷から河川価値の理解を深められたように思う。これらの絵図のつづやきに耳を傾けたい。

本誌の目的の一つが、現存する絵図の網羅であることから、最初に行ったのは淀川流域に位置する46の公立資料館と大学等研究機関に対して、

「用水や上水」、「河川交通」、「地誌的な性格」の5つに分類している。本誌に掲載した絵図の目的も多様であり、多くの絵図は上記の5つに分類されるが、敢えてもう一つを加えるなら「鑑賞」であろう。大阪市立住まいのミュージアムが所蔵している「よと川の図」（江戸時代後期）、円山応挙が描き重要文化財に指定されている「淀川両岸図巻」（1765年）などがある。

それぞれの目的に応じた絵図であることを示すために、本誌では淀川水

河川絵図の有無に関する調査である。

公的機関等が管理する絵図を対象にしたのは、誰もが調査研究等で活用できることを意識したためである。この成果として約150もの河川に關係する絵図の存在を確認でき、これらの絵図を一覧表にまとめることができた。この中で重要と考えた約50の河川絵図については、絵図の写真を掲載し、描かれている「範囲」、「作成目的」、「作成年代」等についての解説を添えた。解説は今回のプロジェクトが重要との思いを同じくした、大学・博物館・資料館の研究者、水の文化を大切に思う市民団体（カット研究会）のメンバー等、14名で行っている。賛同したメンバーの多様性が、絵図の魅力を語っているともいえよう。

全体を網羅する意味から巡見や鑑賞を目的とした絵図を充実させるために、淀川流域以外の資料館等が所蔵する絵図（4点）についても掲載している。この至福の一冊が、一般

系における「河川管理者（大坂町奉行・伏見奉行・京都町奉行）」、「保津川や西高瀬川の利用と改修」、「鴨川での堤防管理」、「享和2（1802）年に発生した水害状況」、「伏見から大坂まで舟運」、「絵図からみた風俗と文化」、「三川合流域の地誌」など、絵図の読み解きも試みた。

これらの絵図を俯瞰する中で見えてきたことの一つは、時間軸の中で絵図を描く目的や対象が変化していることである。江戸期の絵図は、徳川家康が慶長9（1604）年に命



『淀川水系 河川絵図集成』の表紙
～近世絵図から河川の利用と管理を学ぶ～
[丹波保津川より嵯峨大井川迄之圖] (江戸期)

財団法人近畿地域づくり研究所が2022年3月に刊行した『淀川水系河川絵図集成』近世絵図から河川の利用と管理を学ぶ』になる。

そもそも絵図については、京都大学名誉教授の金田章裕氏が『古地図で見る京都』（2016年）で「古地図は作成者と利用者が活動した社会における共通の認識を示していることになりす。その意味では、古地図を読み解く場合に、古地図を作製したのが誰で、利用したのが誰かを念頭に置くことが重要です」と述べているように、絵図は描かれた時代の社会観や地域性だけでなく、絵図を必要とした作成者の意図が強く反映される。この意図を重視したいと思いついて、本誌において掲載する

じて作成した慶長国絵図に始まる。ただ、慶長国絵図は西国33ヶ国だけで作成されたとの説もあり、諸国が網羅されるのは寛永10（1633）年に巡見使が徴収した寛永国絵図が最初となる。幕府は徴収した国絵図を日本総図に編集している。この寛永国絵図が江戸城本丸の火災

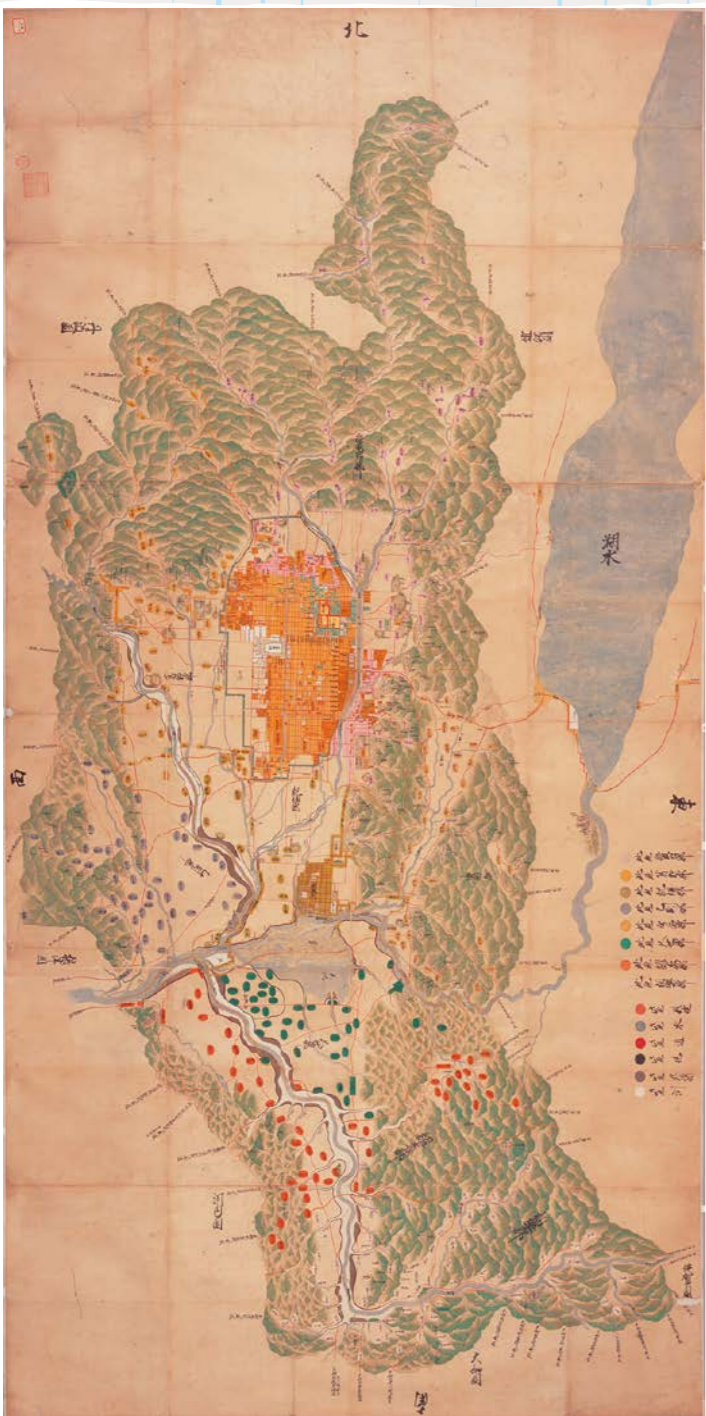
（1639年）で焼失したこともあり、正保元（1644）年に大名らに正保国絵図等の調進を求めている。その後、元禄9（1696）年と天保6（1835）年に着手した元禄国絵

河川絵図は手書きの絵図（写本）を基本とした。手書きの絵図は作成者の意図を反映し個々の目的で描かれるため、より詳細に人と河川の関係を引き出してくれると考えたからである。本誌が対象とした江戸期は、幕府・役人・村役・商人などがそれぞれの業務で用いることから、質量ともに多くの絵図が描かれた時代となる。

これまで、淀川水系の河川絵図については、大阪歴史博物館の特別展『水都大阪と淀川』（2010年）や山城郷土資料館の特別展『木津川ものがたり』（2011年）などで紹介されているが、都市開発や文化など個別のテーマに応じた内容であり、河川絵図を網羅的、体系的に扱ってはいない。また、個々の著書や論文においても、淀川水系の河川絵図を用いた体系的な研究が進んでいないと言いが現状である。

一方、河川絵図の研究については、茨城大学名誉教授の小野寺淳氏が『近世河川絵図の研究』（1991年）を発売されている。小野寺氏は著書の中で河川絵図を「護岸堤を示した治水」、「堤外地の開発や所有」、「農業基準に村々の位置関係を示したかったのであろう」。

国絵図をベースに作成された河川絵図が、京都学・歴史館が所蔵する「山城国水系図」（1723年頃）である。本図は山城国を流れる木津川、桂川、宇治川、鴨川などを詳細に描き、それぞれの河川の流路等の位置関係を知らることができる。特に平安



木津川、淀川、桂川、鴨川などの流路を詳細に確認できる
「山城国水系図」（1723年頃）[京都府立京都学・歴史館 所蔵]

京の東側を流れる鴨川には都の一部のような印象も受ける。鴨川を中心に他の河川との関係では、まずは高瀬川と平面交差している箇所が目撃。鴨川が高野川や堀川、紙屋川と合流する位置関係が、周辺の山々や琵琶湖・巨椋池なども含めて俯瞰できるように描かれている。縮尺的に洛中を大きく描いていることから、京都所司代か京都代官が使用した絵図ではないかと、妄想がひろがる。『元禄覚書』（人）に「山城川筋支配小堀仁右衛門」とあり、1680年から京都代官を世襲している小堀家と本絵図の関連を示す文書が確認

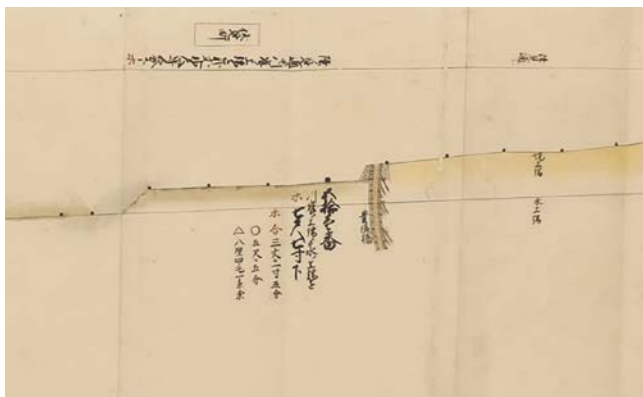


三川合流域の流れ作の状況、「八幡領」など所有者も記載がある（部分抜粋）「伏見川之圖」（江戸中期）【京都産業大学図書館 所蔵】



堆積土砂によってできた島の面積が記されている（部分抜粋）「瀬田川上流絵図」（江戸時代）【京都産業大学図書館 所蔵】

一方で詳細な絵図として、水害の被害状況を示した「宇治川筋向鳴村細図」（1749年）や「伏見宇治川筋細図」（1837年）などの他、このような絵図があったのかと驚きで目が点になった「宇治川堤実測図」（江戸時代中期）を掲載している。絵図は写本だけでなく、江戸時代中期以降になると多くの人が船旅を楽しむようになったことから、より多くの利用者が手にすることができるように



豊後橋付近の堤高、水面高などが記されている（部分抜粋）「宇治川堤実測図」（江戸中期）【京都産業大学図書館 所蔵】

て滞ったために支流に土砂留を行うとともに、河川の流水をよくするために流れ作（新田開発）等を土砂留令で1684年に禁止（後に許可）している。この土砂留工の状況を示すのが前述の「撰河淀川・大和川水系崩所絵図」であり、本誌での掲載が初めとなる「城州江州土砂留場繪圖」（江戸中期）となる。縮尺は異なる2点の情報を読み解くと流域における土砂留工の状況が見えてくる。流出する土砂留を利用した流れ作については、同様に本誌での掲載が初めてとなる「伏見川之圖」（江戸時代中期）と淀川資料館が所蔵する「淀川

通絵図（明和七寅年改）」（1926年）を掲載している。最上流部の瀬田川に堆積した土砂部の面積が記さ

れた「瀬田川上流絵図」（江戸時代）もあり、絵図を面的に組み合わせることで流域全体の土砂対策を俯瞰することもできる。これらの特定の用途に用いられる絵図は河川の特典部分の描き方や記載事項は詳細となり、必要のない部分は簡素化、さらには削除されているのも特徴といえよう。さらに簡素化している絵図としては、河川周辺の村々の石高等を示した「木津川筋絵図」（1835年）や「桂川筋兼繪圖」（1866年）

木版刷りの「川絵図」や「大川便覧」（1843年）などが発刊されるようになる。その一方で円山応挙が描いた「淀川兩岸図巻」のように、特定の貴人が楽しむための絵図等も描かれている。これらのことから江戸中期以降は、絵図の多様性が深まってきたことがわかる。

絵図を眺めるとその美しさに魅了されてしまうが、「河川の利用はココだよ」との絵図のつぶやきに気づくには、描かれた時代の社会情勢や政策の熟知が必要となる。この読み解きが、河川の価値を私達に教えてくれる。



鴨川下流部におけるカスミ堤の状況（部分抜粋）「加茂川繪圖」（1698年）【京都産業大学図書館 所蔵】

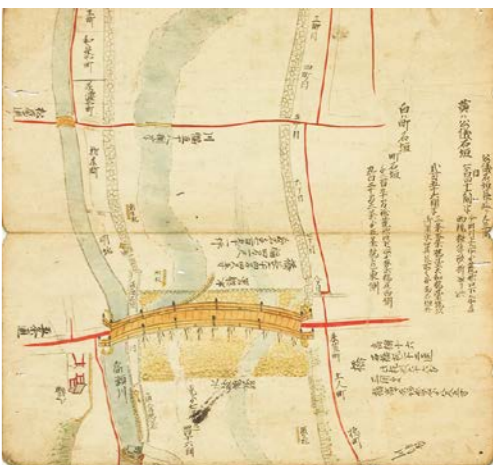
もので、鞍馬川岩屋川落合より桂川落合までを描いた「加茂川繪圖」（1698年）がある。若年寄米倉丹後守が上方筋を取り調べる際に、中井源八郎より上程された本絵図には「鞍馬川・岩屋川落合より五条橋迄六千百貳拾九間程」、「五条橋より桂川落合迄三千九百五拾間程」とあり、測量に基づいていることがわかる。川沿いの状況も詳細に描かれており、石積護岸、蛇籠、水刳、井口、カスミ堤の位置を確認することができ

る。特に荒神橋の下流に描かれた水車には興味津々である。これらの詳細な描写から幕府において鴨川が重要であったことがわかる。幕府が京都の諸代官に対して寛文新堤の修復（経費）については、本絵図が上程された若年寄米倉丹後守に相談するように命じていることから、鴨川の管理に関する絵図ともいえよう。鴨川の寛文新堤の修復後の状況を

示しているのが、「賀茂川筋名細絵図」（1708～11年）である。本絵図は「川方勤書」と表裏一体で、元禄11（1698）年に改修された石積護岸や蛇籠、水刳、井口などとともに、鴨川周辺の寺社や屋敷なども詳細に描写されている。さらに護岸等の延長など、管理に必要な情報の記載があり、当時の鴨川管理状況を詳細に知ることができる絵図といえる。絵図は持ち運びできる折本になっており、京都町奉行の役人である川方が使用したのであろう。他に寛文新堤の整備箇所が確認できる

されると、妄想が事実にかわるかもしれない。もう一枚、国絵図をベースにした絵図に大阪歴史博物館が所蔵する「撰河淀川・大和川水系崩所絵図」（1715年）がある。大坂町奉行が植え付けなどの砂防工事の進捗状況を把握するための絵図で、土砂留普請の対象地である731箇所と整備された156箇所が確認できる。こ

の2点は面的な拡がり、対象物の位置が求められる絵図であり、国絵図をベースにして、いることに納得である。同様に為政者の視点を重視しているのに、巡見使や若年寄等のために描かれた精緻な絵図がある。河川の状況を詳細に知れる特別な



石積護岸の状況、「黄八公儀石垣」、「白八町石垣」と記載がある（三条大橋と五条橋の間）（部分抜粋）「賀茂川筋名細絵図」（1708～11年）【京都産業大学図書館 所蔵】



木津川右岸の支流部に「小松植付場」との記載がある（部分抜粋）「城州江州土砂留場繪圖」（江戸中期）【京都産業大学図書館 所蔵】

近江のうみと、茅渚のうみ

評論家・文化プロデューサー

河内厚郎



流れ、光り、呼吸する、「川」が好きだ。日によって違って見えるのも好きだという詩人の井戸川射子(いとうがわ せし)さん(2019年 中原中也賞)が、大阪中心部を流れる淀川を書きたいとの思いで綴った小説『ここはとても速い川』が野間文芸新人賞を受賞した。近くに淀川が流れる児童養護施設が主な舞台となっている。

人の世の営みを象徴する河川

「子、川の上(ほとり)にありて曰く、逝くものは斯(あ)の如きかな、昼夜を舍かず」(『論語』)

孔子が川のほとりに立って語ったという、この有名な言葉はさまざまな意味に解釈されているが、歴史という営みを持続させてきた(時)への思いを、悠久の川の流れに見立てたものと考えられている。

「川というものは時に永遠にそれを眼にした人の心から消えないよう

な表情を持つことがある」と語ったのは、晩年『孔子』を著した小説家の井上靖(1907~1991)で

あった。若い頃は阪神地域を舞台に現代人のロマンと男の寂寥を題材にとり『猟銃』『あした来る人』(など)、

後半生は主に

東アジアを舞台に歴史を描いた『天平の薨』『敦煌』(など) 文豪・井上靖にとり、川が人間に対する想像力を駆り立ててやまない要素となったのは、人間の生活と常に結びついていくからだと述べている。



淀川大堰の上空から見た新淀川【写真提供：国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所】

山と海には生まれた阪神間に生まれ

育った私にとって、川は身近な存在であった。電車に乗ると、住吉川・芦屋川・夙川：街々を南北に貫流する河川を窓外に眺めることができた。さらに東へ向かうと武庫川や神崎川が現れ、そして淀川を渡り大阪の都心へと入るが、その淀川の川幅と水量には子供心にも圧倒される思いがしたものである。

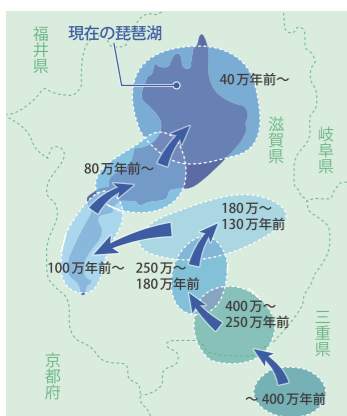
淀川が映し出す時間

ところが、これが昔からあった淀川ではなく、明治末期にできた新淀川であると知ったときは正直驚いた。つまり自然の河川ではなかったわけだ。それを知ったとき、ふだん見慣れたはずの風景に歴史(ヒストリー)という物語(ストーリー)が潜んでいるという思いをつよく抱いた。淀川は昔からその姿を変え続けてきた川だったのである。

この国で淀川ほど人の世の栄枯盛衰を映し出してきた川はない。さまざまな支流をとりこみ、流れを変え、速さを変え、ときには濁り：多くの表情を見せる淀川は「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず、淀みに浮かぶ泡は：」(『方丈記』)という鴨長明の記述さながらに、複雑な歴史の綾を映し出してきた川である。ユーラシアの平野を潤す大河のように広大な流域面積を控えているとはいえないが、多くの盆地や水域に恵まれ、近江盆地の水を集める琵琶湖という水源をもつことで、多様な歴史と風土を育んできた。

近江は淀川文化の故郷

琵琶湖は600万年ほど前に伊賀



琵琶湖の移動【淀川ものがたり】の図を元に作成】



瀬田川洗堰(琵琶湖からの自然の唯一の流出口)【写真提供：国土交通省 近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所】

のあたりで生まれ、少しずつ移動しながら、約130万年前に現在の地に落ち着いた。断層運動による地盤沈下で、湖水の溜まる場所は数十万年単位で移動しているという。琵琶湖には、百以上にも及ぶ一級河川、支流まで含めると二千にも達する川が注いでいる。しかし、この湖から流れ出る河川は瀬田川ただ一つ。瀬田川は、宇治川から淀川へと名を変え、大阪湾に流れ込む。

もう35年も前、私は滋賀県の主宰する「近江文化懇話会」のメンバーとなり、吉良竜夫(滋賀県琵琶湖研究所・初代所長、1919~)と

2011)はじめ何人かの有識者の委員と滋賀の未来像について議論を重ねたことがある。おまかにまとめると、日本のすぐれたモノづくり、現代のハイテク工業技術と、自然環境保護とをいかに両立させていくか。そこに近江文化の未来も重なり合っているのではないかと



琵琶湖全景【写真提供：国土交通省 近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所】

のが最終的な提言の趣旨であった。1984年に開かれた第一回世界湖沼会議では「湖沼は文明の症状を映す鏡である」と総括され、2001年に大阪市で開かれた第九回の大会宣言「琵琶湖宣言2001」では「湖沼の保全・管理

と文化の関係」を新たな課題として明文化したが、さらに考えるなら、琵琶湖と淀川と大阪湾は、ひとつの生態系として運命共同体であると見なすこともできよう。近畿には「淡海(近江)のうみ」と「茅渚のうみ」という二つの内海があり、

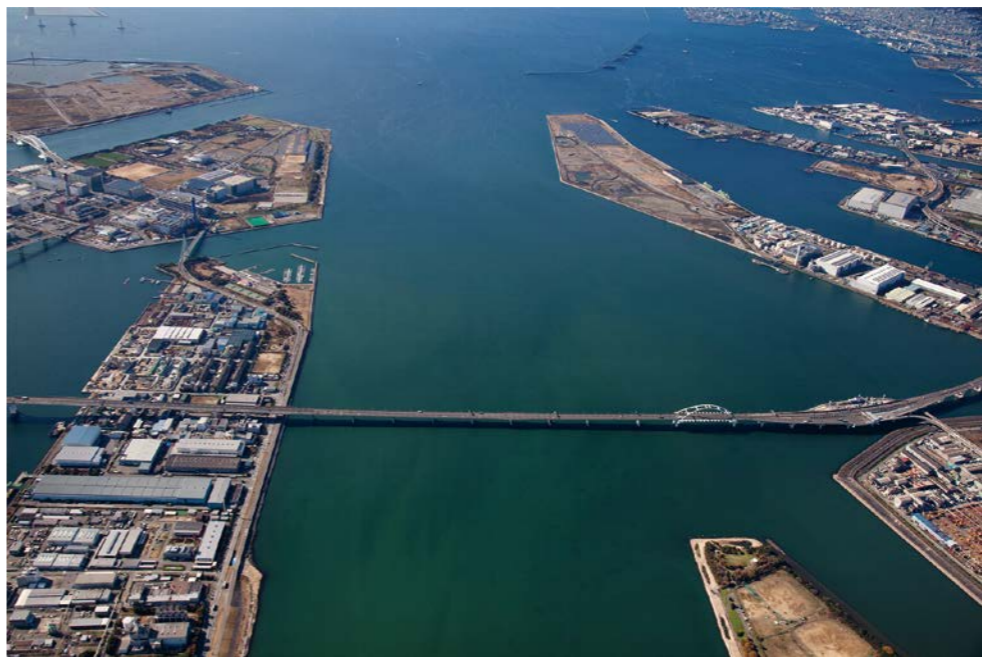
それを結ぶのが淀川であると見なすことができる。

淀川という呼称

「思い出す」ことは人間固有の営みといわれる。昔の日本人は歴史を「鏡(鑑)」と呼び、そこに過去と現

在が映し出されると考えたが、淀川水系はまさに歴史を映し出す鏡であり続けた。

「母なる川」ともいわれる、この川を一般に、三川(宇治川・桂川・木津川)合流部より下流を「淀川」と呼ぶようになったのは、江戸時代



大阪湾(茅渚のうみ)に流入する淀川【写真提供:国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所】

に入ってから、『日本書紀』の、難波に都を置いた仁徳天皇の一代記は、大和川を南水、淀川を北の河と記しているが、山城の淀のあたりを詠んだ『古今集』の歌には「淀川」とあるから、部分的には古代から淀川の名称が使われていたことになる。

仁徳天皇の時代を歴史口

マン『隼別王子の叛乱』で取りあげた

田辺聖子(1928～2019)は

「浪速っ子の私にとつて淀川は母なる川である。古い歌枕の地、豊かな流域の文化、淀川は商都の発展と共に流れ続ける。淀川の歴史を知ることが楽しい」と述懐している。



宇治川・桂川・木津川の三川合流点【写真提供:国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所】

ら、『日本書紀』の、難波に都を置いた仁徳天皇の一代記は、大和川を南水、淀川を北の河と記しているが、山城の淀のあたりを詠んだ『古今集』の歌には「淀川」とあるから、部分的には古代から淀川の名称が使われていたことになる。

交響幻想曲『淀川』

1974年に建設省近畿地方建設局(現・国土交通省近畿地方整備局)がおこなった淀川改修百年記念行事で、淀川をテーマにした曲を依頼された作曲家の松下真一(1922～1990)は、レコード

盤ジャケット「交響幻想曲『淀川』」作曲にあたって「の中で記している。

〈近代的なオーケストラで、単に国内だけではなく、広く世界に、そして高級音楽ファンと称される人たちだけではなく、もっと大勢の人々に愛され、そのメロディが口ずまされるような作品を書きたい、と願

ました。これは淀川沿岸の茨木市に生まれ、茨木市に育ち、かつ大阪市立大学で教鞭を取っていた、この私という作曲家の心からの願いであったわけです。それは限りなく「淀川」を、そして「大阪」を愛している私だからです。

各楽章の冒頭には、源流から河口までをたどる形式にのつとつた曲想を示す表題が付けられた。第一楽章「琵琶湖に注ぐ淀川源流と琵琶湖情緒」は、安曇川・姉川・野洲川など琵琶湖に注ぐ清流や溪流に思いをはせ、それらが合流して琵琶湖旅情となり、ヴァイオリンが水面や夕映えなどを奏で、南郷洗堰に達して終わる。第二楽章「京都の加茂川と桂川」では古都が情緒的に描かれる。第三楽章「淀川は山崎を過ぎ、大阪平野を貫流する」は、〈能〉的な効果を与えつつ、そこに三十石船への幻想が加わり、枚方大橋から大阪平野に貫流する、スケッチ風の軽快な楽章だ。第四楽章「栄光の淀川、国際都市・大阪を貫流し、更に全世界に広がる母なる淀川」では、合唱が加わる讃歌となり、第四楽章のラスト

鏡としての淀川水系

は、淀川を称え、大阪の未来に希望を託す合唱「淀川讃歌」で締めくくる。

山城 大和・近江・伊賀・丹波といった内陸の国々から、淀川と大和川が流れこんで形成されてきた大阪湾岸の地は、古くは「凡河内」と総称され、のちに摂津・河内・和泉へと分かれた。ベトナムの首都ハノイは漢字で「河内」と書くが、そこもデルタのひろがる都市圏であり、山間部から急に平野部へ流れ出るとい構造も似ている。

びわ湖毎日マラソンが2022年に大阪マラソンと統合されることが決まった。1946年に大阪で誕生した毎日マラソン大会は62年に滋賀県へコースを移し、国際レース「びわ湖毎日マラソン大会」となったが、淀川の上下流を統合した一大イベントとなることで、琵琶湖から大阪湾まで運命共同体としての歴史を再認識することになる。

近江今津(高島市)と西宮市今津、阪神沿線の打出(芦屋市)と打出浜

古代国家播籃の湖国をしのんで

(大津市)、大津と泉大津、石山寺と石山(かつての上町台地北端)という具合に、近江の湖岸と摂津和泉の海岸には共通する地名が多いことにも思い当たる。

難波の都において摂政となり、のちに琵琶湖岸に初めて都を置いた天智天皇(中大兄皇子)の生涯を、恋と動乱に生きた万葉女流歌人の目から描いた『額田女王』(井上靖)は、古代国家形成のエネルギーが渦巻く時代を独自の史眼で綴った歴史ロマンである。

天智帝が亡くなった折に皇后・倭姫王の詠んだ歌を紹介しよう。

いさなとり 近江の海を
沖放けて 漕ぎ来る船
辺附きて 漕ぐ来る船
沖つ權 いたくなはねそ
へつ權 いたくなはねそ
若草の つまの 思ふ鳥立つ
(近江の海で、沖の方を漕いで来る船よ。岸近くを漕いで来る船よ。沖の船は沖の船で、岸近い船は岸近い船で、共に漕ぐ權でひどく水をはね

この二首は、わずか数年の間に廃墟となった、大津京の栄華を想い残した柿本人麻呂の反歌である。

淀川の歴史をあたかも人間の生涯のように見立てた『淀川ものがたり』(主筆・河内厚郎)を廣済堂出版から出したところ、図録や絵が凝っていることもあって好評であった。もう廃刊になっており、あの本は手に入らないのですかと聞かれるので電子書籍化に踏み切った。(次は『大阪海想録』のデジタル化をめざしている)

鴨川運河の魅力とは
その魅力を活かしたまちづくり

鴨川運河とは

琵琶湖疏水の一部である鴨川運河は、1894（明治27）年9月に開通しました。左京区冷泉放水口（冷泉通川端・鴨川合流点）から伏見区堀詰町まで約9kmを南北に流れています。

琵琶湖疏水の運河としての目的は、京都と大津間の運河を淀川に連絡させて、大阪と伏見と京都と大津間に舟運を開き、京都の商業の発達を図



連なる橋梁

ることでしたので、京都と伏見間を連ねる鴨川運河はこの目的を達成するために、是非とも開通させなければならぬものだったので。1912（明治45）年に完成した第2疏水の建設に伴い水量が増えたため川幅は約2倍に拡張され、1914（大正3）年には墨染にインクラインの高低差を利用した発電所ができました。こうして鴨川運河は様々な形で活用されましたが、1959（昭和34）年に伏見インクラインが撤去され道路になったことで、舟運としての役目は終了しました。墨染発電所は現在も関西電力の発電所として年間約2000戸分の電力量を供給しています。

またその後は京阪電車の地下化によって御池通から塩小路通までほとんどの部分は暗渠化されましたが、塩小路通以南の流路はその当時のまま現在に残っています。大正から昭和初期に架け替えられた多くの橋は、幾度かの改修にも関わらず橋脚や親柱が残され、ほぼ100年の時を超

えた現在でも竣工当初の姿を垣間見ることが出来ます。

そのような鴨川運河ですが、琵琶湖疏水水系の中では山科地区や岡崎地区に比べると注目度は低く、鴨川と間違う方も少なくありません。



選奨土木遺産認定記念式典

その鴨川運河が2019（平成元）年には「琵琶湖疏水鴨川運河施設群」として「土木学会選奨土木遺産」に認定されました。選考理由として、「琵琶湖疏水鴨川運河施設群は、橋梁などが群として存在する独特の景観を造り出しているところに大きな特徴がある土木遺産です。」として評価されたのです。2020年10月25日には、門川京都市長を迎えて「琵琶湖疏水鴨川運河施設群」選奨土木遺産認定を祝う会を「高松橋ひろば」にて開催し、注目度も少しずつ高くなりつつあります。



高松橋ひろば

鴨川運河会議とは

そのような鴨川運河について、運河及びその周辺を個性的な地域資源として捉え、現在暮らす人々にとつてのより良い活用方を考えることを目的とした「鴨川運河会議」を2013年10月に設立しました。2014年には、深草を縦断する鴨川運河への関心を高めるための冊子「カモガワウンガ100の視点」を作成し、その冊子を活用したまち歩きイベント「わたしの視点発見

鴨川運河の魅力の一部を紹介します

ツアー」を何度も開催し、鴨川運河の認知度を向上させる活動を行いました。このような活動を通じて、地域や市民の間で鴨川運河の認知度・理解の向上が進み、鴨川運河に興味を持った地域住民、NPO法人、学校教師、学生・生徒など20数名が集まりました。現在は10数名が中心となって、カフェによる憩いとにぎわいの場の創出、認識を高めるためのウォーキングツアーの開催、音楽による楽しい場づくり、遊休地の活用、親柱の拓本採取等の活動を行っています。



ウォーキング風景

鴨川運河に沿って200mに渡って煉瓦が敷かれた場所があります。よく見ると敷石には「+や-、あるいは○の三カ所に線が入っています。ここは「岸和田煉瓦の小径」と呼んでいる散策路で、明治末期に手作りでできた岸和田煉瓦と大阪窯業の煉瓦だとわかりました。およそ6千枚のほとんどの煉瓦に、刻印が打たれているのは大変珍しいことなのです。敷かれた時期を管理する京都市上下水道局に確認すると、意外にも昭和40年代ということでした。この場所の補修工事の際に、職員が手作業で在庫として保管してあった煉



岸和田煉瓦の小径



駒札「岸和田煉瓦」

瓦を敷いたそうです。数年前に、京都市上下水道局に貴重な煉瓦との認識がなく、この煉瓦を撤去しアスファルト工事をする計画があがったときは、京都市会に要望書を提出しました。工事は差し止めになり、岸和田煉瓦が作る景観を保存することができました。また、第三軍道が通る中ノ郷橋の傍らには、鉄の配管と下から支える刺す股のような構築物があります。奇妙な形に興味をわき、京都市上下水道局に確認すると、既に利用はされていませんが、陸軍が設置した軍用水道の遺構であることがわかりました。『京都市水道百年史』によると、明治41年に陸軍



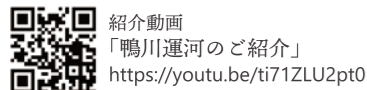
軍用水道の遺構



明治の刻印がある継手部分

昨年、鴨川運河をより多くの方々に知ってもらえるように紹介動画を作成しましたので、こちらをご覧ください。

鴨川運河会議はこれらの活動によって、多くの方々に鴨川運河を取り巻く地域の魅力を伝え、景観を含めた保全・活用に関する機運が高まるよう、継続的な行動・活動へ広がっていくことを目指して活動していきます。



紹介動画「鴨川運河のご紹介」
<https://youtu.be/ti71ZLU2pt0>

水都大阪と幻の大阪大国技館(16)

水都の会城北川プロジェクト(代表 藤井 薫)

ロシアの大阪侵攻?

クリミアで戦闘中のロシアが今度は巨大な軍艦を日本に差し向け、大阪湾に突然侵入。天保山沖2キロまで迫り、市民は恐怖にかられます！連日その惨劇がメディアを占拠するロシアのウクライナ侵攻。そんな折に「ロシア軍艦の大阪侵入?そんなフェイクニュース、不謹慎だ!」とお叱りを受けるかもしれません。しかし、偽りではありません。もっともロシア船の来航は安政元(1854)年のことでしたが――。

この年、プーチンならぬロシアのプチャーチン提督は幕府に開国を求め、軍艦ディアナ号で大阪(大坂)に来航。江戸ではなく大阪に来たのは、実は当時、ロシアは英・仏・トルコとクリミア(現ウクライナ)戦争の最中で、江戸では敵国艦隊と遭遇する恐れがあったためです。



プチャーチン提督

プチャーチン提督の来航は安政元(1854)年のことでしたが――。

一般に黒船と言えばアメリカですが、当時の大阪の市民や京都の朝廷にとり「黒船」とはまさにロシアのことで、朝廷が攘夷の方針を固めるきっかけともなった日本史上においても指折りの大事件でした。

水都大阪と国技館の謎をご紹介します。本稿ですが、遠いようで、実は大阪も時にロシアと抜き難い関係を持ってきました。今号では急遽一部予定を変更し、水都の看板「中之島」を中心にそれらの話を致します。

幻の大阪遷都から官庁街へ

水運の便の良さから各藩の蔵屋敷が連なる商業・物流街であった江戸時代の中之島ですが、幕藩体制がきしむにつれ、次第に寂れていきます。しかし、大久保利通の「大阪遷都建議」もあり、明治のごく初頭には新政府の手により、中之島の蔵屋敷跡など、旧淀川沿いに国の機関が立地します。ほんの一瞬ですが大阪にも首都になる目があったのです！

(A)造幣局 明治元年 中央区天満1丁目



天満橋(八軒家)に聳える「大阪生神女庇護聖堂」【写真提供】大阪ハリストス正教会

収容所が2万8千人収容できた大阪の「浜寺俘虜収容所」でした。

露開戦時は、ロシアに敵愾心を燃や



第12代朝日山 四郎右衛門

困窮した朝日山は同様の状況に

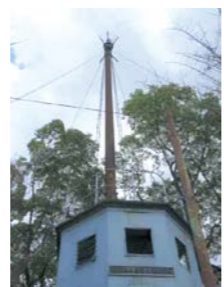
結果的にこれらは現在の中之島、剣先公園に設置されます。恐らく江戸時代、淀川を下った「剣先船」に例えようとしたものと思われ



昭和4年2月22日 大阪毎日新聞

不沈戦艦「中之島」?

昭和4年2月、大阪在郷軍人会が海軍に軍艦「最上」のマストと艦橋の無償下附を申請。新聞ではこれらは後に「日露大海戦記念塔」として、大阪城か中之島に設置されるとあります。



軍艦「最上」のマストと艦橋【写真提供】柏木 功氏

「夢よもう一度」と太平洋戦争に突入した日本の軍部。一方、クリミアの「手品の様な無血占領?」で国民の喝采を浴び、再度ウクライナ全土に侵攻したプーチン大統領。凄惨な泥沼の戦争をもたらしたのは、どちらも慢心の末のことと思われ

川崎東照宮跡に建設が決定。明治4年4月大蔵省造幣寮として創業。明治元年10月中央区島町の旧幕府代官邸舎他に開設。太政官会計局の全国の河川行政担当部局(現国土交通省水管理・国土保全局)の源流。為替会社 明治2年北區中之島に太政官会計局通商司監督下の我が国初の「政府系銀行」として設立。東京遷都の後も中之島は、大阪の税務監督局・通信局・通信局、中之島税務署、中央郵便局他多数の行政機関、日銀大阪支店等が立地する官庁街として発展します。

アカデミックアイランド「中之島」

明治も中頃には諸官庁は組織拡充等により、次第に他地域に移転。



- ①大阪高等工業学校(後の阪大工学部)
- ②大阪府師範学校
- ③大阪府第一番中学校(後の府立北野高校)
- ④大阪高等女学校(後の府立大手前高校)
- ⑤大阪府第一番中学校商法学予科(後の商業高校の前身)
- ⑥府立高等医学校(後の大阪府立医科大、大阪医学部・同病院)
- ⑦官立商船学校大阪分校
- ⑧大阪市立実業学校
- ⑨中之島尋常小学校
- ⑩第二盈進高等小学校
- ⑪大阪大倉商業学校



浪花百景「三大橋」【資料提供】中之島図書館

三橋楼とハリストス正教会

大川に架かる難波・天神・天満の「三橋」は江戸時代より何度も浮世絵に描かれた水都大阪の名所です。幕末から明治中期にかけ、この三橋を北に臨む高台の中央区石町



巨椋池の蓮見舟（昭和5年頃）
【出典】水土の礎（一社）農業農村整備情報総合センター

一方、巨椋池沿岸地域は宇治川から分離された後も、大雨で地域に湛水する水が宇治川に排出できず、毎年浸水被害に悩まされてきました。

かつて本地域にあった巨椋池について教えてください

巨椋池は魚介類が豊富で、地域の食料供給源で、また蓮の花の咲く時期には蓮見舟が出るなど、洛南の景勝地でもありました。

巨椋池排水機場管理協議会 事務局長 森田 克己 さん



平常時の上段・中段排水は標高を活かして宇治川に自然排水され、下段排水はポンプで排水されました。宇治川洪水時は、洪水規模に応じて10台の排水ポンプを上段・中段・下段の各排水に最適に台数を割り当て

巨椋池地域の排水システムはどのような事業でしたか？

巨椋池干拓事業は、巨椋池の水質悪化、池周辺での疫病（マラリア）などの課題を解決するために昭和初期に我が国初の国営干拓事業として実施されました（昭和7〜16年度）。池の底であった約800haの土地は農地として生まれ変わり、戦後戦後の食糧難の時期に大きな役割を果たしました。

巨椋池干拓事業はどのような事業でしたか？

巨椋池干拓事業は、巨椋池の水質悪化、池周辺での疫病（マラリア）などの課題を解決するために昭和初期に我が国初の国営干拓事業として実施されました（昭和7〜16年度）。池の底であった約800haの土地は農地として生まれ変わり、戦後戦後の食糧難の時期に大きな役割を果たしました。

巨椋池排水機場の管理はどのように実施されていますか？

本排水機場の管理は京都市、宇治市及び久御山町が共同して実施しています。このための組織として平成19年3月15日に地方自治法の規定に基づき巨椋池排水機場管理協議会が

巨椋池地域の市街化進展、流出形態の変化による低平地域の農地湛水の増加への対応が必要になったため、老朽化の進んだ旧巨椋池排水機場を機能アップする全面改修により新設されました。

排水能力80m³/sは旧排水機場の1.5倍以上の能力で、これにより中段・下段地域の排水を担っています。

平成18年度に完成した現在の巨椋池排水機場の役割について教えてください。

巨椋池地域の市街化進展、流出形態の変化による低平地域の農地湛水の増加への対応が必要になったため、老朽化の進んだ旧巨椋池排水機場を機能アップする全面改修により新設されました。

排水能力80m³/sは旧排水機場の1.5倍以上の能力で、これにより中段・下段地域の排水を担っています。

巨椋池排水機場の管理はどのように実施されていますか？

本排水機場の管理は京都市、宇治市及び久御山町が共同して実施しています。このための組織として平成19年3月15日に地方自治法の規定に基づき巨椋池排水機場管理協議会が

排水機場の管理はどのように実施されていますか？

本排水機場の管理は京都市、宇治市及び久御山町が共同して実施しています。このための組織として平成19年3月15日に地方自治法の規定に基づき巨椋池排水機場管理協議会が

排水機場の管理はどのように実施されていますか？

本排水機場の管理は京都市、宇治市及び久御山町が共同して実施しています。このための組織として平成19年3月15日に地方自治法の規定に基づき巨椋池排水機場管理協議会が

参考資料 巨椋池干拓誌（昭和37年巨椋池土地改良区）、巨椋池干拓六十年史（平成13年巨椋池土地改良区）、水土の礎（一社）農業農村整備情報総合センター）
パンフ干拓から未来へ夢を咲かせ巨椋池（平成26年巨椋池排水機場管理協議会）、巨椋池まるごと格納庫（巨椋池排水機場資料館）
京都府第8回木津川・桂川・宇治川圏域河川整備計画検討委員会資料（平成23年）、近畿地方整備局 淀川河川事務所 HP



巨椋池地域（西から東を望む）の斜め航空写真
【出典】Google map ※地図に説明追加



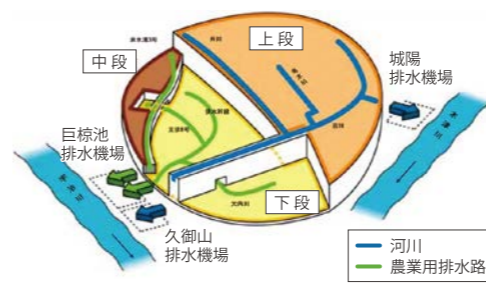
巨椋池干拓事業により生まれた農地は重要な

巨椋池地域の排水システム及び農水省巨椋池排水機場を紹介します。

巨椋池地域の 特徴

本地域には、かつては宇治川、木津川、桂川が流入する広大な遊水地（巨椋池）が広がっていました。巨椋池は、昔は大池とも呼ばれ、幾多の変遷を経て、最終的には明治時代に実施された国（内務省）の淀川改良工事に伴って宇治川から切り離され、単独の池となりました。この巨椋池は、昭和初期に我が国初の国営干拓事業（昭和7〜16年度）により広大な農地に生まれ変わっています。

宇治川と木津川に挟まれた巨椋池地域は面積約53km²で、上流丘陵地から支川古川が流れ宇治川に注いでいます。巨椋池地域の自治体は、宇治市（巨椋池東部）、城陽市（南東部木津川沿い）、京都市（北部宇治川沿い）久御山町（中央部）、八幡市（南部三川合流部付近など）です。



巨椋池地域の排水システム概念図
【出典】京都府第8回木津川・桂川・宇治川圏域河川整備計画検討委員会資料（平成23年10月31日）

新巨椋池排水機場の概要

設置者	農林水産省
管理者	巨椋池排水機場管理協議会（京都市、宇治市、久御山町）
操作	巨椋池土地改良区
目的	農地排水
設置年	平成18年度
規模	80m ³ /秒（8.0m ³ /秒×2台、21.33m ³ /秒×3台）
（現時点）	



旧排水機場 新排水機場

食料生産拠点となっています。丘陵地部は市街化されています。また本地域は京都と大阪の間の立地条件にあるため、近年は第2京阪道、京滋バイパスなどの道路網整備が進み、大型ショッピングセンターの進出など比較的高い低レイアにも市街化が進んでいます。

巨椋池地域の排水システム

巨椋池地域の排水システムは、標高に応じて地域を上段地域（古川流域）・中段地域（宇治川沿いの比較的高い地域）・下段地域（干拓地など）の3排水ブロックに分轄し、上段古川流域の排水を国土交通省久御山排水機場と京都府城陽排水機場が、中段と下段の排水を農林水産省巨椋池排水機場が担っています。

column

秀吉時代の巨椋池



秀吉時代の巨椋池沿岸図【出典】淀川河川事務所 HP

宇治川、木津川、桂川が流入する広大な遊水地であった巨椋池は、豊臣秀吉による伏見城築城、伏見港整備の一環として築造した横島堤防（現在の宇治川左岸堤防）により上流部が宇治川と分離され、下流の淀付近で宇治川とつながっていました。

旧・新巨椋池排水機場（平成17年3月撮影）
【出典】巨椋池まるごと格納庫 ※写真に説明追加